

令和3年度 弘前市総合計画審議会 議事概要 (第1回)			
日 時	令和3年7月20日(火) 17時30分～19時15分		
場 所	弘前市役所 市民防災館 3階 防災会議室	傍聴者	0人
出席者	委員 (19人)	森会長、今村委員、高島委員、鴻野委員、川村委員、藤田委員、崎野委員、大西委員、田澤委員、熊谷委員、清藤委員、高橋委員、鈴木委員、小田桐委員、斎藤委員、鹿内委員、珍田委員、成田委員、外崎委員	
	事務局 (6人)	企画部長、企画課長、企画課長補佐、企画課総括主査、企画課主査、企画課主事	
	その他		
会 議 概 要			
1 開 会			
2 委嘱状交付 ○企画部長から川村委員に対して委嘱状を交付。			
3 議 事			
(1) 令和3年度弘前市総合計画審議会の進め方について ○事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。			
(2) 弘前市総合計画リーディングプロジェクトの一次評価について ○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
<p>【リーディングプロジェクト「(1) 誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連する取組である、「障がい者理解啓発事業」の進捗状況は。 ⇒当該事業は令和3年度からの新規事業であるが、詳細は把握していないので、担当課に確認のうえ回答したい。 ・「多様な人材活躍応援事業」の資格取得チャレンジ事業について、制度の周知・広報はどうなっているのか。幅広く周知したほうが効果は出ると思う。 ⇒市ホームページ、広報ひろさきに掲載していたと思うが、詳細は担当課に確認のうえ回答したい。 			

・除排雪のオペレーター不足や高齢化への対策や人材確保について、どのように考えているのか。

⇒市としても大きな課題として捉えている。担当課で人材の確保も含め、取組を進めているところである。

【リーディングプロジェクト「(2) 安心できる医療体制と健康長寿の推進」】

・包括的支援事業に関して、包括支援センター職員が認知症サポーター養成講座を担当するキャラバンメイトを兼務していたり、予防プランを作成していたりすると、人員を増やしてもこれらの業務を何とかしなければセンター職員の負担が増え続けてしまうことに留意していただきたい。

・今後の方向性の欄で、「令和4年度からは望ましい生活習慣の実施が難しい親子に対する継続した現状確認、支援等を行っていきます」とあるが、これまでは何も支援を行ってこなかったということか。また、「望ましい生活習慣」とあるが、この表現だと、何が望ましい生活習慣なのか、その基準や評価方法がわからないのではないか。

⇒表現については見直しを検討する。

本記載の趣旨としては、これまで1歳半・3歳児健診では発達状況の確認がメインであったが、今年度からは保健師による生活習慣の確認を新たに行っており、来年度からは、2歳児健診の際にも生活習慣の現状確認を行い、必要に応じて指導を行っていくことを検討中である。

【リーディングプロジェクト「(3) 地域を担うひとづくり」】

・1人1台端末を配備したと思うが、今後の維持管理やソフトの更新等はどうなるのか。

⇒1人1台端末の配備については、国からの交付金を活用しているが、今後の機器の維持管理や使用ソフトの更新等については、市の責任において必要な対応を行っていくこととなっている。

【リーディングプロジェクト「(4) つながる・支える地域コミュニティ」】

・市民参加型まちづくり1%システム支援事業において、今年度からスタート部門の募集を開始したが、一次募集では残念ながら応募がゼロだった。

スタート部門は補助金額の上限が5万円だが、そもそも5万円以下の申請はなかなかない。5万円だと、仲間内で頑張れば集められなくもない金額なので、スタート部門としての方向性がちょっと違ったのかなと感じている。

- ・町会の担い手に関して、会長や班長などは特に業務の負担が大きく、仕事の都合上、引き受けられない世帯もあるので、町会業務の改善も必要だと思う。

例えば、総会の資料作成を、市のエリア担当職員にサポートしてもらえれば町会の負担も減るので、ぜひ検討いただきたい。

【リーディングプロジェクト「(5) 2025年に向けた早期対策の推進」】

- ・まちなかお出かけパス事業について、対象者は抽選なのか。
⇒令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で申込者数が少なく、先着順となっている。

- ・介護の自立支援の観点からいくと、自立を頑張った高齢者が優先的に利用できる制度であってもよいのではないか。現段階ではまだ対象者が限定的であり、「早い者勝ち」という印象である。頑張った人に配布するほうが、納得感も得やすいのではないかと思うので、参考にしていただきたい。

⇒免許返納者に対し優先的に配布しているので、いただいたご意見を担当課に伝え、検討していく。

- ・パスをもらえない人もいるのか。

⇒数までは把握していないが、もらえない人もいる。

- ・空き家・空き地対策推進事業の活動結果の欄にある成果は、令和2年度における単年度の成果なのか。

⇒令和2年度の単年度の成果である。

- ・単年度でこれだけの成果があることに驚いた。今後も取組を進めて欲しい。

空き家・空き地の相談件数はかなりあるのか。どれくらいの相談があって、うち、実績に結び付いたのはこれくらいの割合であったということも、市民に周知していく必要があると思う。

- ・創業・起業に関連する情報提供となるが、親方町に医学部の学生がカフェをオープンしたところ、これに刺激を受けて、医学部の学生たちの中で創業の機運が高まっている。

【その他】

- ・成果が「△」にも関わらず、方向性が「維持」となっている計画事業がある。
成果が「△」で「維持」であれば、さらに悪化するのではないか。「△」であれば、「拡充」として事業の見直しをするべきではないか。

⇒「成果」は令和2年度の実績であり、「方向性」は令和4年度に向けた方向性となっている。令和2年度の成果が「△」であったため、令和3年度は見直し・

改善をして、それを令和4年度に向けて維持する、という整理の事業もある。
わかりづらいが、「維持」だからといって見直し・改善を行っていないということ
ではない。

- ・今の説明を踏まえても、「維持」という言葉が適切とは思わない。「維持」という言葉は、一般の方にはマイナス評価として受け止められかねない。「拡充」とすべき
だと思う。

⇒ご指摘のとおり、わかりづらい部分はあるので、表現については確認する。

4 閉 会